

伝統的部門の雇用吸収力とアングラ経済

——フィリピン漁村の実態調査を中心に——……………

<報告者> 鳥飼 行博(東海大学)

<討論者> 高田 一夫(一橋大学)

(小島 宏記)

国際人口学会・ローマ大学・メシーナ大学主催
「先進国における前期成人死亡の人口学に関するセミナー」
出席報告

標記の国際人口学会・ローマ大学・メシーナ大学主催セミナーは1992年6月1日から5日にかけて、イタリアのシシリー島における風光明媚な町タオルミーナにて開催された。このセミナーの実質的組織は国際人口学会成人死亡研究委員会によって行われたもので、特に委員長の Alan D. Lopez 博士、同委員でローマ大学人口学部教授の Graziella Caselli 博士の企画と努力によるところが大きい。参加者は予定リストによれば68名に上るが、実際に出席したのは65名であった。この中の著名な学者として、ローマ大学人口学教授 Antonio Golini 教授、フィレンツェ大学教授で国際人口学会現会長の Massimo Livi-Bacci 博士、フィンランド、ヘルシンキ大学社会学教授 Tapani Valkonen 博士、ベルギーのルーバン・カソリック大学人口研究所教授の Guillaum Wunsch 博士、フランス国立人口研究所部長の Jacques Vallin 博士等が参加している。アジアからの参加者は少なく、僅かに厚生省人口問題研究所の河野綱果所長が出席したのみである。

セミナーは八つのセッションから成り立つ。セッション1. 成人死亡研究における理論的枠組、セッション2. 先進国における成人死亡の地域によって異なったパターン、セッション3. 死亡率格差の疫学的解釈、セッション4. 長期観測的社会経済的観点からみた死亡率格差、セッション5. 成人死亡に対する社会的役割: 配偶関係、職業に関する格差の影響、セッション6. 成人死亡の性差、セッション7. 死亡率格差を縮小するための健康政策と必要なデータ収集、となっている。

河野所長はセッション3の座長を務めた。

(河野綱果記)

国際人口学会・アメリカ人口学会・メキシコ人口学会他主催
「アメリカ大陸における人口拡散に関する国際会議」への参加報告

本会議は、「アメリカ大陸における人口拡散」に関する国際会議 (International Conference on "The Peopling of the Americas") と称し、1992年5月17日～23日までメキシコのベラクルス市で開催された。1992年がアメリカ大陸「到来」500周年にあたり、これにちなんで主に南北アメリカ大陸を対象として「到来」以前より今日にいたる出生、死亡、移動などの人口研究に関する知見を各研究分野からもちより、研究の到達点の確認を含めて広範囲に人口現象を分析しようとするものである。また、現在21世紀を目前にして歴史の転換期にあり、この会議を南北アメリカ人口研究の次の500年への新たな第一歩とする主旨のもと開催されたものである。開催地としてメキシコ国のベラクルス市が選ばれたのもこの地がメキシコでは最初にイベリア半島人が足を踏み入れた地であるという理由がある。

同会議は、国際人口学会、アメリカ人口学会をはじめ南北アメリカの5つの人口に関する学会、機関が主催したものである。上述のような目的の会議であり、研究報告のセッション (共通論題、個別のテーマ部会) も全部で37あり、内容も多岐にわたるものであった。関心をもった主なセッション名を以下に記した。

なお、研究参加者 (登録者) は南北アメリカを中心に世界から約360人、日本からはメキシコ在住者2人を含め4人が参加した。